

(資料一)

## 空山に建設予定の発電用風車に関する経過等について

### 経過

昨年10月末鳥取県企業局から空山に発電用風車の建設を予定しているがこれに対し「友の会」の意見があればと問い合わせがあり、既に企業局電気課長あて（11月12日付け）に反対理由を付した上で・当該計画の再考を強く求める意見を提出しました。  
(別添資料一参照)

その後2度に亘り説明会が持たれましたが、説明を聞けば聞くほど風車のフライトへの影響が広範囲であり、その影響内容も深刻で一度ハング・パラグライダーがその影響を受けた場合、後方乱流による失速により生命の危険が伴う事故が想定されるに至りました。この場所（フライトエリア内）で現計画での発電用風車の建設とスカイスポーツとしてのフライトの共存は困難と思われたので、この段階で企業局に対し「勇気ある撤退」も選択の一つではと進言しました。

さらに砂丘での体験型観光フライト・講習フライト等にも少なからず影響を与えかねないと思われます。砂丘ではフライトの基本をマスター、次のステップで霊石山での初級講習へと進んでいくため、空山での風車建設によるスカイスポーツの衰退は、砂丘での体験型スカイスポーツの衰退へと進んでいくことが予測されると説明しました。

この様に風車建設に伴う影響は、単にスカイスポーツの振興云々に止まらず、体験型観光・更には環境問題への影響等、多岐に亘って議論されなければならないと思います。今最も重要な点は、各方面の関係諸団体等で構成する公開された審議会的な機関を、行政サイドで早急に立ち上げる事だと思えます。そして将来に禍根を残さないためにも、ここでの徹底した審議とその内容の情報公開が望まれることを進言しました。

そこで「友の会」としても、以下具体的に当エリアの特徴・現状・飛行状況・各種大会開催状況、更に霊石山のフライトエリアと密接に関係のある砂丘でのフライト状況等を詳しく検証し、スカイスポーツの発展と振興という視点からこの問題を捉えて見る事にしました。(内容の多くは、説明経過の中で企業局からも質問という形で出されていたものです。)

### 霊石山フライトエリアの特徴

霊石山と空山は連続した北向きの独立した山であり、日本海が近いこともあって日中海風（北風）が入りフライト確率が非常に高いエリアです。この海風によって安定したリッチソアリングが可能となり特に霊石山北側斜面は初級者の講習には最適のエリアとして広く知られています。

霊石山フライトエリアは霊石山のTO（離陸地点）を中心に半径5,0kmの空域ですが、この中でも霊石山・空山・前山の空域（3km<sup>2</sup>）は上昇気流（サーマル）の発生源となっており、エリアの中心・核ともいべき存在となっています。

上級者にとって、この空域での高高度の獲得は、砂丘方面（北方面）・氷ノ山方面（南方面）へとより遠くへのフライトが可能となり大きな魅力となっています。

### 霊石山フライトエリアの現状

登録会員は平成15年（1～12月）で344名（ちなみにH6当初316、H8がピークで534）年間フライト人員はH15年で3110名（入山届け）、フライト回数は10,000回程度と推定されます。（別添資料二参照）

## 霊石山フライトエリアでの飛行状況

風車建設予定の空山空域（県営牧場）との関連で状況を述べれば、  
空山上空はハングライダーにとって通常の飛行空域であり、またパラグライダー  
にとっても上級者は飛行空域となります。（別添写真等参照）

空山上空への飛行経路・高度・頻度等については、季節や時間帯等その時々  
の気象状況（風向、風速、様々な雲の発生と日照状況、サーマルの強弱等々）  
に強く左右され千差万別であり特定は出来ません。

## 霊石山フライトエリアで開催される大会等

年間に開催される大会日程と設定されるコースの概要は、

- ① ゼロカップ・・・5月（前山～県道付近～ホームセンターいない～林試等）
- ② 八上姫レディースカップ・・・8月（前山～県道付近～ホームセンターいない～林試等）
- ③ 関西学連夏季大会・・・7～8月（空山サイロ～前山～倉田小学校～老人ホーム等）
- ④ ハングライダー県大会・・・〇月（空山サイロ～前山～倉田小学校～老人ホーム等）
- ⑤ パラグライダー県大会・・・〇月（前山～県道付近～ホームセンターいない～林試等）
- ⑥ 各スクールの親睦大会・・・日程とコースはその都度定めているようです。
- ⑦ 今後全国的な大会も予想されます。

各大会で空山・県道付近は重要なパイロンの位置として指定されています。

## 霊石山フライトエリアと連動した砂丘でのフライト状況

現在砂丘において、パラグライダーとハングライダーの2つの部門でスクールが存  
在し過去18年間に亘り観光1日体験フライトをはじめ、各種初級講習を展開しています。

ちなみに H15年の年間フライト人員はPG1717人（内1日体験者778名）・HG4000  
人合わせて凡そ5700人強となっています。（別添資料—3参照）

砂丘の講習はフライト技術の基本のマスターにあり、次のステップで霊石山での初級  
講習へと進んでいく、この様に砂丘と霊石山のフライトエリアは密接に連動しています。

## 地域とのふれあい

昨年八上姫レディースカップにおいては地元選手村を設営選手との交流の輪が広  
がった。

鳥取市及び河原町の保育園児とパラグライダーに乗ったサンタクロースとの交流が  
図られ園児たちの喜んでいる姿が印象的でした。

平成9年に「友の会」は鳥取県より、スカイスポーツの発展及び鳥取県のPR  
に対して優れた活動を実践したと認められ「鳥取の誇り百選」の認定証を頂いています。

今後ともこの認定証に恥じないよう、周辺地域住民との交流や地域の活性化に少  
しでもお役に立てる様努力をしていきたいと思っています。

## まとめ（要請）

以上のような状況を見る限り、「霊石山フライトエリア」内に現計画どおりの発電用  
風車を建設するのは非常に無理があり、県民的合意を得るのは難しいのではないかと、  
私たち「友の会」は判断しています。

しかし何れに致しましても現時点では、1日も早い審議会的な機関の立ち上げと、  
そこでの建設の是非も含めた徹底した議論が求められます。そのことを第一に要請し  
て置きたいと思っております。

霊石山フライトエリア友の会会長 美甘 頼昭